

弥生の生活を体験！ くたたま 管玉をつくる

青谷上寺地遺跡展示館は、1月に年一回の展示替えを終え、リニューアルしました。今回の展示テーマは、「青谷上寺地の交流」で、交流によってもたらされた品々や、輸入した鉄製品を使って作ったさまざまな物を展示紹介しています。



管玉と幻玉(中央下)の首飾り

を使っていたと思われる。管玉はどのように作っていたのでしょうか。

管玉の作り方

- ①まず原石を打ち欠いて直方体の素材を作ります。それを分割して角柱状の素材にします。この工程では石鋸という薄い石材を使い、原石に溝を付けて割ります。
- ②さらに打ち欠き作業をして角を整形します。
- ③砥石で研磨し、ほぼ断面が円形になるように整形します。
- ④穴を開け、さらに丸く整形して表面を磨き上げます。

弥生から時を超えて

青谷上寺地遺跡

その中に、管玉の製作過程に関する資料を展示しています。管玉は、碧玉という石を使って加工しています。この碧



管玉ができるまで
※原石(左上)から完成(右下)までの製作過程

玉は、青谷周辺では産出しませんが、岡山県北部や島根県玉造温泉周辺で産出するもの

このような製作過程のわかる資料を見ると、「どこから、どのように原石を運んできたの?」「どんな道具で石を割ったり、穴を開けたの?」「1個作るのに何時間かかったのかな?」などなど、いろいろなことが想像できます。

環境大学

シリーズ vol.11

環境政策学科 / 環境デザイン学科 / 情報システム学科
http://www.kankyo-u.ac.jp/
E-mail:nyushi@kankyo-u.ac.jp

■問い合わせ先
入試広報課
(0857)38-6720

TOPICS

トピックス 2

第1回環境社会検定試験 (Eco検定)に本学生 78人が合格!

全国33会場で行われた第1回環境社会検定試験(Eco検定[東京商工会議所主催])に、本学の学生104人が挑み78人が晴れて合格、『エコピープル』の仲間入りを果たしました。この検定試験は、幅広い環境問題に対する基礎的な知識を持ち、そこから生まれる環境意識を日常行動に率先して移せる人材としての能力を測るもので、温暖化などの地球環境問題・時事問題など90題が出題され、全国で約1万5千人余りが受験しました。受験者は社会人が多く、CSR(企業の社会的責任)活動や環境ビジネスの展開に役立つなどの社会ニーズに合った試験であるといえます。また、就職を控えた大学生にとっても環境関連分野の企業・団体などへの就職活動に大いにアピールする有力な材料になると考えられます。



なお、本学は大学として全国最多の合格者数でした。

TOPICS

トピックス 1

環境政策学科に 「山陰地域有力企業就職コース」誕生

山陰地域には、一般的にあまり知られていないものさまざまな分野で有力な企業が多数あります。本学で修得した能力を生かし、これらの企業に就職を希望する学生が増えていることから、本学独自の就職情報網などを駆使し、平成19年度から環境政策学科に「山陰地域有力企業就職コース」を開設します。これは、昨年同学科に開設した「金融機関就職コース」に続くものです。



多数の就職希望の学生が集まる
「金融機関就職コース」